

SIDR

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 23年 11月
(第44 ～47週)

発行年月日：平成23年(2011年)12月13日

発行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 ^{*1}				感染症 類型	疾 病 名	平成 23年				平成 22年 ^{*1}					
		1～10月		11月		1～12月		1～10月				11月		1～12月		1～10月		11月		1～12月	
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	130	0	29	0	133	0	133	0	133
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	8	0	0	0	4	0	4	0	4
	ベスト	0	0	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	1	0	0	0	2	0	2		ブルセラ症	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2
	結核	266	25,206	23	2,328	251	26,704	0	0		ペネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	3	0	3	0	1	0	1	0	1
三類	コレラ	0	10	0	0	0	10	0	10		マラリア	0	70	0	2	0	76	0	76	0	76
	細菌性赤痢	3	259	0	17	2	235	0	2	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	68	3,489	2	225	66	4,131	0	32	ライム病	0	7	0	0	0	13	0	13	0	13	
	腸チフス	0	20	0	1	0	32	0	21	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
四類	バラチフス	0	20	0	0	1	21	0	66	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	E型肝炎	0	49	0	5	0	66	0	0	類鼻疽	0	2	0	1	0	4	0	4	0	4	
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0	レジオネラ症	10	658	1	72	10	751	0	20	0	20	
	A型肝炎	0	162	0	6	3	346	0	17	レプトスピラ症	0	20	0	4	0	20	0	0	0	0	
	エキノコックス症	0	13	0	1	0	17	0	0	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0	アメーバ赤痢	2	674	0	68	7	845	0	222	0	222	
	オウム病	0	13	0	0	1	11	0	0	ウイルス性肝炎	1	203	0	18	3	222	0	241	0	241	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	急性脳炎	1	215	0	11	0	241	0	16	0	16	
	回帰熱	0	0	0	0	0	1	0	0	クリプトスポリジウム症	0	7	0	1	0	16	1	171	3	127	
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	112	1	10	2	171	4	1,194	1	52	
	Q熱	0	0	0	1	0	2	0	0	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	168	0	11	3	127	1	52	0	7	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0	後天性免疫不全症候群	4	1,194	1	127	1	1,549	0	7	0	1	
	コクシジオイデス症	0	2	0	0	0	1	0	0	ジアルジア症	1	52	0	4	1	80	0	7	0	1	
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0	髄膜炎菌性髄膜炎	0	7	0	3	0	7	0	1	0	1	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	先天性風疹症候群	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	梅毒	6	651	0	76	9	621	1	97	0	106	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	破傷風	1	97	0	5	0	106	0	0	0	0	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	チクングニア熱 ^(*)	0	6	0	3	-	-	0	0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	53	0	6	2	121	2	333	0	18	
	つつが虫病	0	186	0	112	2	406	0	0	風しん	2	333	0	18	5	89	1	418	0	8	
	デング熱	1	90	0	6	2	245	0	0	麻しん	1	418	0	8	1	455	0	71	0	0	
	四類	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類	0	71	0	0	0	9	9	25	0	2
											細菌性赤痢のサル	9	25	0	2	0	59	0	0	0	0
											エキノコックス症の犬	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

(*) : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。- : 未集計

*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

(*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。－：未集計

*1 感染症発生動向調査事業年報(国立感染症研究所感染症情報センター、暫定数)

滋賀県における全数報告感染症の概要 (11月)

＜結核＞ 23名

性別：男性 13名、女性 10名

類型：患者 17名

無症状病原体保有者 6名

病型：肺結核 10名

その他の結核 7名

無症状病原体保有者 6名

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

性別：男性 1名、女性 1名

類型：無症状病原体保有者 2名

年齢：18歳、26歳

血清型・毒索型：

O157・VT1+VT2 1名

O157・VT2 1名

＜レジオネラ症＞ 男性 63歳

推定感染経路は不明で、推定感染地

域はウズベキスタンまたはタジキスタン

または朝鮮民主主義人民共和国です。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞

女性 64歳

推定感染経路および推定感染地域と

もに不明です。

＜後天性免疫不全症候群＞

男性 63歳

推定感染経路は異性間性的接触で、

推定感染地域は日本国内です。病型は

AIDSです。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

11月の概要

<インフルエンザ>

先月より大幅に増加し、第47週(11/21～11/27)には、彦根および高島を除くすべての保健所管内からの報告があり、県全体の定点当たり患者数は0.47となっていました。また、第46週(11/14～11/20)には、インフルエンザウイルスAH3(香港)型が、今シーズンになって初めて、県内で検出されました。

<小児科定点疾患>

今月は大部分の疾患で増加し、特に、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎および水痘で大幅に増加していました。減少した疾患は伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病およびヘルパンギーナで、百日咳は横ばいでした(各疾患の週別発生状況は、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

RSウイルス感染症-----過去(平成16～22年)同時期の発生状況と比較すると、先月に引き続き、定点当たり患者数はかなり多くなっていました。また、第1～47週(1/3～11/27)の年齢群別の発生割合は、0～1歳 80%、2～3歳 17%で全体の97%を占めていました。全国においても、3歳以下で全体の約93%を占めていました。

手足口病-----第44～47週の定点当たり患者数は2.22～2.53で推移し、昨年同時期よりかなり多くなっていました。また、甲賀保健所管内では、第45週(11/7～11/13)に警報終息基準値(定点当たり患者数2.00)未満となりましたが、長浜保健所管内では、引き続き警報終息基準値を超えていました。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より半減し、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患である細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎は東近江保健所管内からの報告のみでした。マイコプラズマ肺炎は先月よりほぼ倍増し、大津市、甲賀、東近江および彦根保健所管内からの報告があり、特に、大津市および東近江で多くなっていました。マイコプラズマ肺炎の年齢群別発生割合は、下記グラフのとおりです。また、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

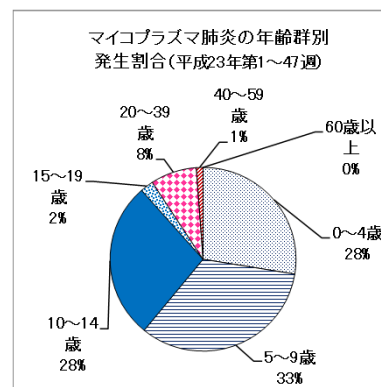
<インフルエンザ(入院)>

第44週(10/31～11/6)に、インフルエンザ入院患者 1名の届出がありました。また、全国における第44～47週(10/31～11/27)の入院患者数は62名でした。

<疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。

マイコプラズマ肺炎の年齢群別発生割合
(平成23年第1～47週、H23.1.3～H23.11.27)

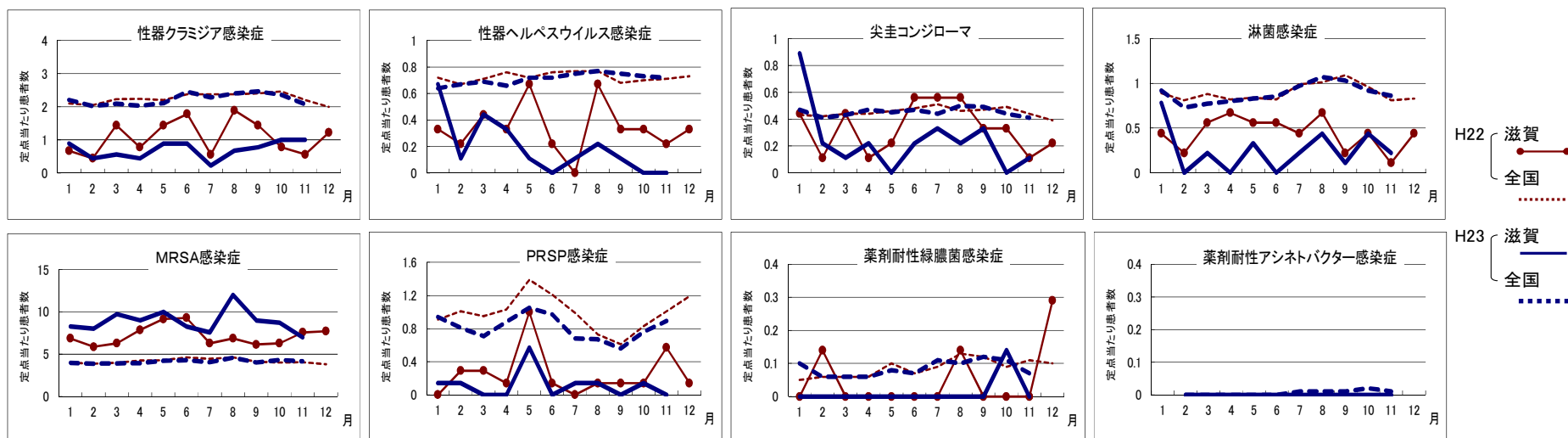


定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 23 年 11 月)

疾患名	区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4	8	8	2	6	7	9	9		70
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44	0.89	0.89	0.22	0.67	0.78	1.00	1.00		7.78
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3	1	0	1	2	1	0	0		19
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33	0.11	0	0.11	0.22	0.11	0	0		2.10
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2	0	2	3	2	3	0	1		24
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22	0	0.22	0.33	0.22	0.33	0	0.11		2.65
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0	3	0	2	4	1	4	2		25
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0	0.33	0	0.22	0.44	0.11	0.44	0.22		2.76
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63	70	58	53	84	63	61	49		683
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00	10.00	8.29	7.57	12.00	9.00	8.71	7.00		97.57
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0	4	0	1	1	0	1	0		9
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0	0.57	0	0.14	0.14	0	0.14	0		1.27
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		1
	定点当たり患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.14	0		0.14
薬剤耐性 アシネトバクター感染症(*)	報告数	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	定点当たり患者数	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0

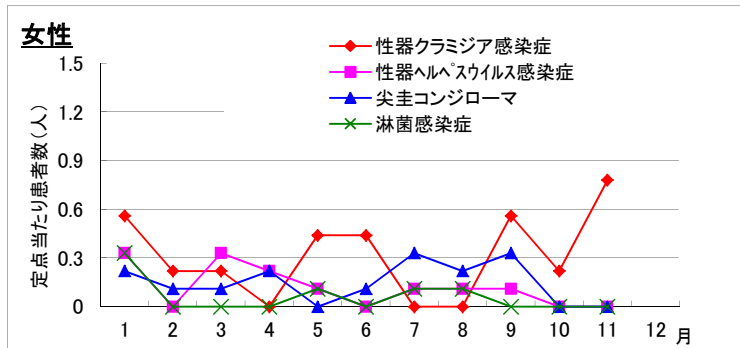
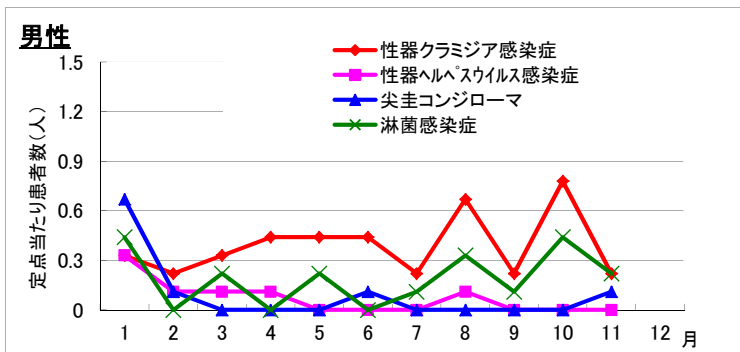
*: 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。-は未集計。



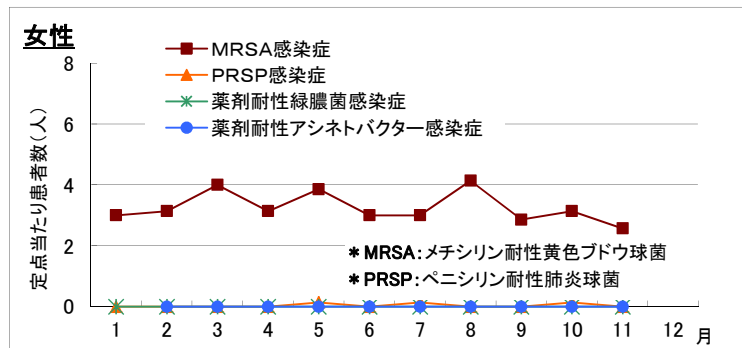
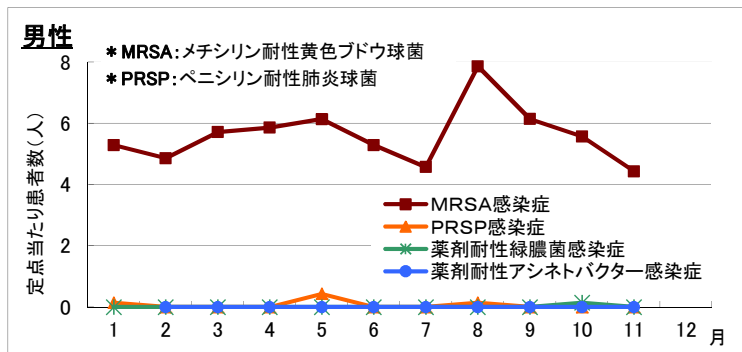
滋賀県における発生状況は上記に示すとおり、今月、報告のあった疾患は性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症およびMRSA感染症です。先月と比較すると、性器クラミジア感染症は横ばい、尖圭コンジローマは微増、淋菌感染症およびMRSA感染症は減少しました。PRSP感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症も減少し、報告されませんでした。また、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況
(H23.11)



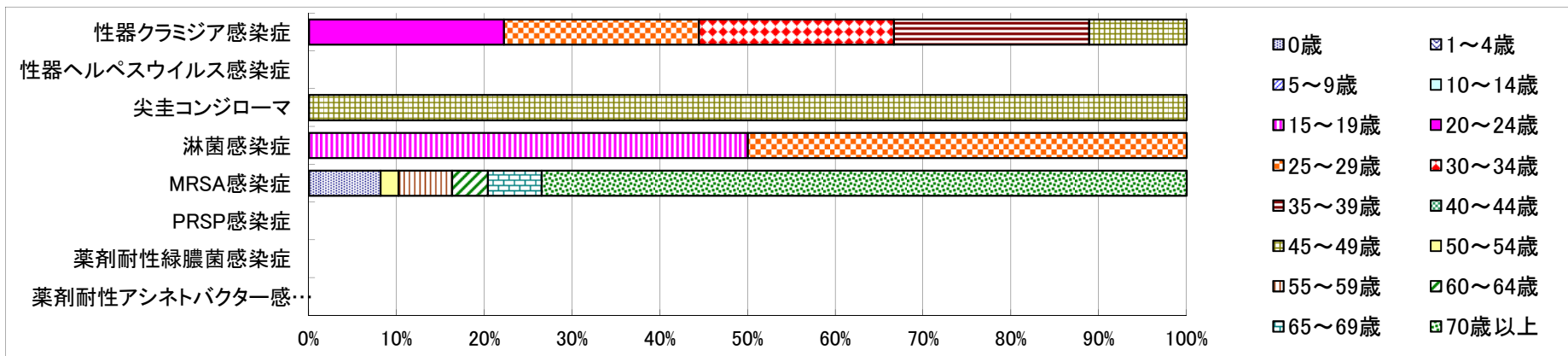
基幹定点における疾患別発生状況
(H23.11)



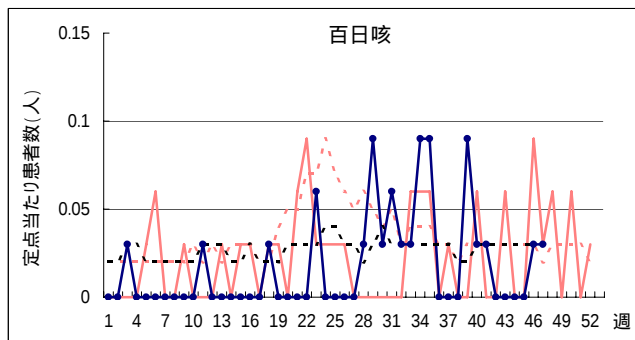
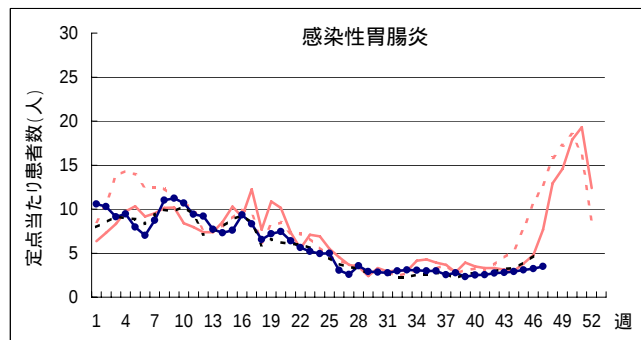
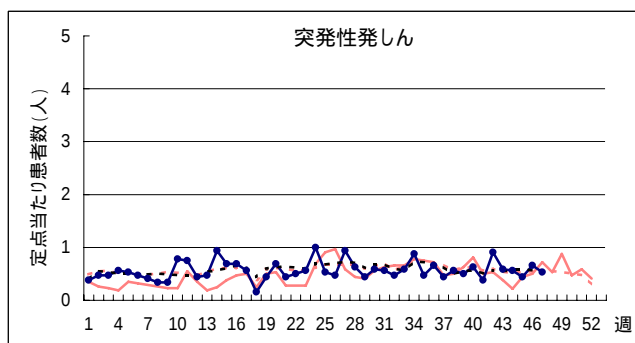
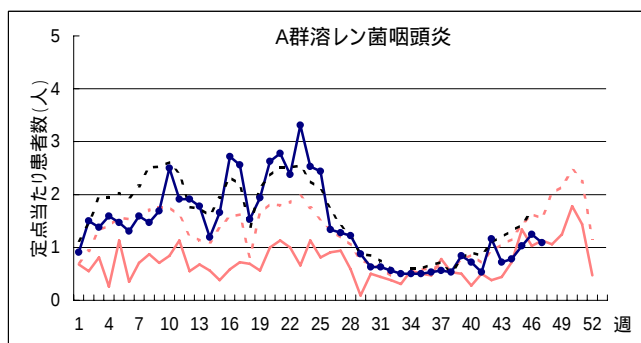
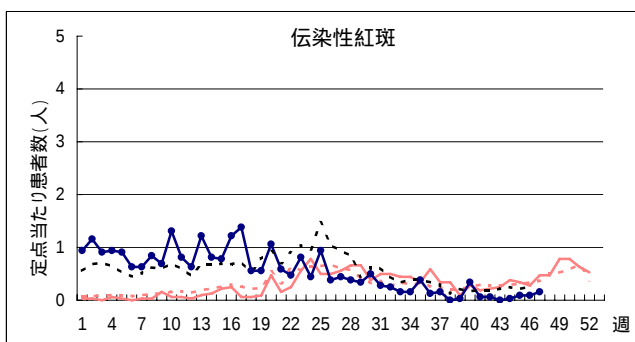
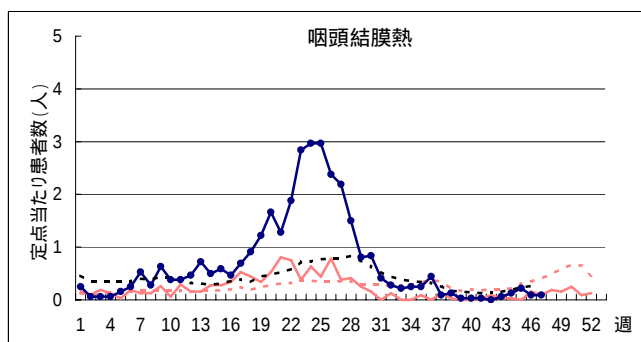
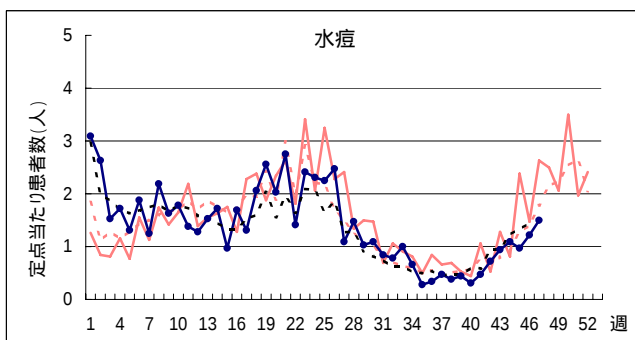
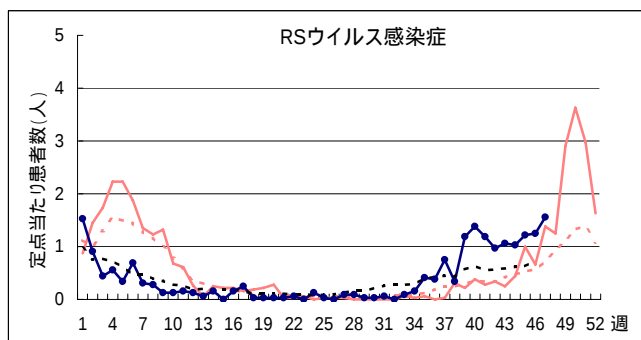
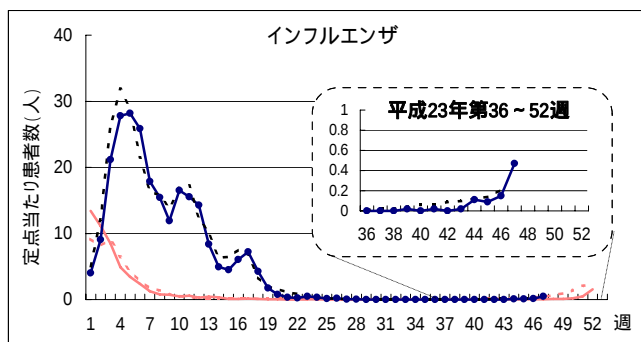
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。性器クラミジア感染症では、県全体では横ばいですが、男性で大幅に減少し、女性で大幅に増加していました。淋菌感染症では、男性で減少し、女性からの報告は、先月に引き続きありませんでした。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。淋菌感染症では、15～19歳からの報告がありました。

疾患別・年齢別発生状況(H23.11)



疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～47週、H23.1.3～H23.11.27)



疾病別定点当たり患者数 (平成23年第 1 ~ 47 週、H23.1.3 ~ H23.11.27)

H22 〔 滋賀 ———— 全国 〕 H23 〔 滋賀 ———— 全国 〕

